

技術遺産に7件 13日認定式

J A B M E E



特別認定を受けた『聴竹居』

建築設備技術者協会(JABMEE)は、歴史的意義のある設備技術を評価する2014年度建築設備技術遺産7件と特別認定1件を認定した。建築設備技術遺産7件のうち、13年度申請が3件、14年度申請が4件だった。認定式は13日の総会終了後に実施する。

特別認定を受けた「藤井厚二『聴竹居(自邸)』の建築環境設備技術」では、昭和3(1928)年に建てられた建築家・藤井厚二の自邸を日本の気候風土や近代的ライフスタイルに適した住宅として高く評価した。認定委員

特別認定『聴竹居』 環境共生と日本様式が融合

長を務めた鎌田元康東大名誉教授は「『聴竹居』は環境装置の組み込まれた住宅であり建築設備技術遺産の定義には該当しない」としながらも、環境共生技術と日本の住宅様式が融合した先駆的な取り組みとして特別認定に推した。特別認定を実施するのは今回が初めて。

認定を受けた8件の名称と管理者は以下のとおり(敬称略)。

● 建築設備技術遺産 ●

▽平川ボイラ便覧Ⅱヒラカワ▽現存する最古のガス吸収冷暖房機Ⅱ宮城県管工事会館▽空気絶縁型バスタクトの絶縁ホルダーⅡ共同カイツェク▽TOTTO歴史資料館所蔵の各種湯水混合水栓ⅡTOTTO歴史資料館▽高砂荏原式ターボ冷凍機(国産第1号ターボ冷凍機)Ⅱ高砂熱学工業▽UR集合住宅歴史館の住宅設備技術遺産および公団設置第一号昇降機Ⅱ都市再生機構▽天然ガス利用第1号ガスコージェネレーションシステムⅡ東京ガス。

● 特別認定 ●

▽藤井厚二「聴竹居(自邸)」の建築環境設備技術Ⅱ小西伸一・荻野和雄。